

松戸市薬剤師会における 薬局DOTSの現状について

一般社団法人松戸市薬剤師会 副会長 保険薬局委員長(あさひ薬局)

まり松戸薬局
あい調剤薬局

○飯塚 泰幸
齋藤 英祐・齋藤 博美
康 進



1 松戸市の結核患者の状況

千葉県の北西部に位置する松戸市は、都心から鉄道で30～40分という交通事情から、首都圏へ通勤する人々の住宅地として発展しており、人口は平成27年4月現在で487,919人と千葉県第3位の規模の都市です。

平成26年度の統計によると、新登録結核患者は69人、潜在性結核感染症は68人。罹患率14.3(人口10万対)となっています。

2 松戸市薬局DOTSの現状

松戸市薬剤師会での薬局DOTSの開始は、松戸保健所から依頼を受けた平成21年度にさかのぼります。開始にあたり実施した市内調剤薬局会員対象のアンケート調査により、薬局DOTSに対する認知度が低いことが分かったため、毎月発行している薬剤師会通信(会報誌)や薬剤師会HPに情報を掲載したり、様々な研修会の中で情報を発信したりすることで会員への周知を図りました。その甲斐あってか、薬局DOTS参加登録薬局数は市内30局を超えるまでとなっています。また、千葉県主催のDOTS支援者研修会で薬局DOTSを経験した会員が講演を行うなど、市内にとどまらない幅広い活動を行うようにもなりました。

3 薬局DOTSを経験した会員の声

(1) A薬局 40歳代女性患者(外国籍,日本語は片言,院外処方)

独自に作成した『お願い書』を通して薬局での取り組みや薬剤師の役割および思いについて理解をしていただいた。その後毎回DOTSに来局され服薬完遂を迎えることができた。

*「あせらず、あきらめず最後まで頑張りましょう。服用を忘れた時など正直に話して下さい。その他分からないことがありましたらお話し下さい。その場で答えられない場合は調べて後でお話します(『お願い書』一部抜粋)。

(2) B薬局 70歳代女性患者(高血圧および糖尿病治療中,院内処方)

内服終了間近は保健所管理となり薬局DOTSをしていなかったが、最近本人が来局され、手に基礎疾患の処方箋と「無事先日終了しました」の言葉。お互い手を

取り合って喜んだ。新しいお薬手帳を作って欲しいと言われ、抗結核薬の記載されていない手帳を作った。薬局DOTSをきっかけに、かかりつけ薬局・薬剤師としてお付き合いしていきたいです。

(3) C薬局 50歳代男性患者(潜在性結核感染症,院外処方)

副作用の自覚症状はなかったが、血液検査で肝機能の高値が出たため、服用量を減量して治療継続することとなった。服薬継続に対してとても不安が強かったが、主治医と連携をとりながら副作用の説明や今後の経過を丁寧に説明したことで安心して内服および薬局DOTSを続け、服薬完遂を迎えることができました。事例を通し、1A 任せて安心(医師側) 2A 身近で安心(患者側) 3A DOTSで安心(薬剤師)という3つのAでWIN-WIN関係を築くことができ、DOTSが成功するのだと思いました。

松戸健康福祉センターによる「結核/薬局DOTS通信」

4 新しい取り組み

これまでは市内調剤薬局薬剤師を対象に周知活動をしていましたが、薬局DOTSを経験した会員が増える中で、今年度は病院の薬剤師にも広く周知したいと考え、昨年12月に薬業連携研修会(市内の調剤薬局薬剤師と病院薬剤師を対象)を初めて開催しました。

また、昨年5月になされたDOTS連携にかかる厚労省課長通知を受け、これまでの活動や薬局DOTSの現場を知ってもらい、さらなる薬剤師会員の活動参加を促すべく、松戸保健所と「結核／薬局DOTS通信」を作成・配付しました。

5 おわりに

薬局DOTSにおいて薬剤師の仕事といえば、患者が抗結核薬を医師の指示通りに服薬できているかどうか、また副作用が発現していないかどうかを確認し、服薬完遂までの相談指導を行うことが第一です。しかし、単にそれだけにとどまりません。基礎疾患の内服薬とトータルして管理することが重要な役割であり、それができることが薬剤師の強みともなります。薬局が「かかりつけ薬局」「健康サポート薬局」として、患者にとって身近で安心であることが求められている昨今、薬剤師会も地域でDOTSを担う一員として、薬局DOTSを重要な活動の一つと捉え進めてまいります。



薬局窓口でDOTSしています(月1回の受診後の処方時に実施)



本人が持参した1カ月分の空袋を確認して印を押しています

<薬剤師会との連携による服薬支援体制の構築に向けて>

松戸健康福祉センター(松戸保健所) 疾病対策課 主任保健師 高谷 千絵

松戸保健所では薬局DOTS事業を開始するにあたり、患者に身近で安心できる服薬支援体制を整えるため、より多くの薬局に携わってもらいたいと考えました。そこで、薬剤師会に働きかけ、薬剤師会員に対しDOTS事業への参加を促すような周知を行ってもらおうこととしました。研修会や、広報紙の作成を通じた周知活動を薬剤師会としての重要な活動の一つに位置づけて取り組んでいただいたことにより、事業に参加した薬局は現在では市内32局となり、全体の約25%(会員薬局)までに増えております。今後も継続して薬剤師会と連携をとり、患者にとって充実した服薬支援体制を整えてまいります。